

令和元年度病虫害発生予察注意報第1号

令和元年8月23日
山梨県

病虫害名：せん孔細菌病

対象作物：モモ

1 内容

発生量：多い

発生地域：全域

2 根拠

(1) 8月中旬に巡回調査を実施した結果、調査した30ほ場のうち29ほ場（発病ほ場率97%）で発病が確認された（表1、図1、2）。

(2) 気象庁発表の関東甲信地方3か月予報（7月24日）によると、9月は平年と同様に曇りや雨の日が多い見込みであるため、病原細菌の感染に好適な条件が続くと予想される。

表1 調査ほ場における発病状況

地域	調査ほ場数	発病ほ場数	程度別発病ほ場数 ^{※1}					発病ほ場率（%）	発病果の有無 ^{※2}
			無	少	中	多	甚		
中北	9	9	0	4	3	1	1	100	有
峡東	21	20	1	9	3	4	4	95	有
合計	30	29	1	13	6	5	5	97	

※1 各ほ場の5樹について病斑の見られる葉の割合を求め、以下の基準により発病程度を分類した。

無：発病なし、少：発病葉率1～10%、中：11～30%、多：30～50%、甚：51%以上

※2 収穫前の果実があった中北2ほ場、峡東3ほ場で発病果が確認された。

（令和元年8月14～15日 病虫害防除所調べ）



図1 葉の病斑



図2 果実の病斑

3 防除上注意すべき事項

- (1) 薬剤散布の前に、病斑のある枝（図3）の剪除を徹底する。剪除した枝等は放置せず、必ずほ場外に持ち出し処分する。
- (2) 病原細菌は強風を伴う雨で広く拡散するため、台風や大雨が予想される場合は、薬剤散布を事前に行う（表2）。
- (3) 難防除病害であるため、数年かけた継続的対応が必要である。

表2 モモせん孔細菌病の秋季防除対策

時期	防除薬剤 (100㎡あたり薬量)	散布量	注意事項
9月中旬～ 10月上旬 ※2週間間隔で2回 散布する。	IC ボルドー412 30倍 (3.3kg) または 4-12 式ボルドー液 (硫酸銅 400g、生石灰 1.2kg)	500㎡ /10a	住宅隣接園では、ムッシュボルドーDF (500倍) 加用クレフノン (100倍) を用いる。ただし、薬害が発生するおそれがあるため、高温時の散布は避ける。
※10月上旬の防除後、落葉が遅い場合や台風が接近する恐れがある場合は、追加防除（上記防除方法に準ずる）を行う。 ※剪定时、枯れ枝は切除する。			



図3 夏型枝病斑